

1. 実施概要

【目的】公共施設の現状や課題を共有し、施設総量の抑制を前提に、これからの時代に必要な公共施設の在り方について考え、その実現に向けたアイデアや視点を各施設の運営に最前線で携わっている職員による検討を行い、「公共施設の在り方・再編方針」の策定につなげていく。

第1回
令和6年11月5日（火）14:30～16:30 参加20名（4班）

テーマ：将来ニーズも踏まえた確保すべき公共サービス・機能

第2回
令和6年11月28日（木）14:30～16:30 参加20名（4班）

テーマ1：「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か
テーマ2：多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか

2. 結果概要

第1回 将来の在り方

これからの公共施設サービスの方向性・在り方

- **「場の提供」**：誰もが自由に立ち寄り利用できる、多世代交流が可能な、フレキシブルな利用ができる施設
- **施設の複合化**
- 設置目的等の見直し
- 選択と集中により必要十分な量のサービス提供
- **デジタル活用による効率化**
- **民間施設活用**や近隣市との**広域連携**等推進
- **運営委託**など地域の自主性を重んじた施設運営
- **施設管理の一元化**

第2回 誰もが利用できる市民の居場所の実現手段

民間活用（管理・運営面）

施設の管理・運営に関し効率化・合理化を求めただけでなく、民間のアイデア・ノウハウを積極的に取り入れ**民間による質の高い運営やサービス提供**を行う。

民間活用（施設・ハード面）

民間施設の利用のほか、市民にとって地域のシンボルであり、話題に取り上げられ関心が高まるよう、コンペによる建築デザインの決定や企画段階から**民間のアイデア・ノウハウ等を取り入れた施設設計**を行う。

移動手段の確保（民間活用を含む）

施設の再編・集約化等により、公共施設から離れた方も利用しやすく、利便性が増すように**移動手段の確保や先端技術を取り入れた無人運転の導入等**を検討する。

施設の再編・集約による地域拠点化

地域に小規模施設が数多く分散しており、膨らんでいる施設の維持管理費の縮小を図るため、施設の**再編や集約化**を行い、あわせて**地域における拠点化**を図る。

設置目的の再考・ルールの変更

条例や法等による様々な利用制限や、利用の際の事前予約等のわずらわしさを解消するため、**設置目的の再考・ルールの変更**により利用に関し自由度を高める。

確実な維持管理・維持管理の一元化

施設所管課の予算・人手不足等による対応の遅れが生じていたり、社会情勢に応じた事前の物品の確保など求められていることから、専門知識を有する組織による**管理の一元化・一括管理**による滞りのない確実な維持管理を実施するとともに、スケールメリットを活かしたコスト削減を図る。

居心地のよい空間の確保

公共施設にくる目的は人それぞれで、また目的がなくても行きたくなるような市民の居場所となるよう、市民の誰もが（個でも団体でも、こどもも大人も障がいのある方も・・・）、快適に過ごせる**居心地の良い空間**をつくる。

近接する施設や利便性を踏まえた立地選定

市民にとって商業施設や駅等は日ごろから利用している身近な施設であり、生活に欠かせない施設でもある。それらの商業施設や、駅・駅前利便施設近くであれば、多くの人が集まるとともに、市民のついで利用も促されることから、**アクセス・利便性の高い場所**を選定する。

市民意見や発想の転換による機能・サービスの導入

市民のための施設であることが前提であることから、**市民意見を反映**させるとともに、誰もが利用できる居場所であり多様なニーズに応えられる、公共施設といった**固定概念の解消や発想の転換により機能やサービス充実**させる。

1. 実施概要

目的	公共施設の現状や課題を共有し、これからの時代に必要な公共施設の在り方について考え、その実現に向けたアイデアや視点を各施設の運営に最前線で携わっている職員による検討を行い、「公共施設の在り方・再編方針」の策定につなげていく。
日時・参加人数	令和6年11月5日（火）14：30～16：30、20名（4班体制）
テーマ	テーマ1：将来ニーズも踏まえた確保すべき公共サービス・機能 （将来を見据えた公共サービスとして変わるべき部分・維持するべき部分とは、これからの公共施設サービスとして必要なサービスとは）

2. 結果概要

将来予測

人口減少・人口構成の変化

将来的には人口減少に転じるものの、高齢者や外国人、独身世帯の増加など、現在と人口構成・世帯構成の変化が見られる。
それらに伴い、ますます人材・人手不足が生じ、現行サービスの提供、維持・管理が厳しくなる。

市民の価値観・ニーズの多様化

市民の価値観が多様化し、求められる機能・サービスの細分化・個別化が進み、また、年齢層やバックボーン、時代の流れによってニーズが変化していく。

デジタル技術の活用

行政サービスのデジタル化が進行し、公共施設の無人管理化も進む。また、デジタル技術の活用により自動運転バスの運行や、オンライン手続き、資料の電子化等により、人材不足や保管場所不足等をカバーするようになる。

将来の在り方

維持すべき機能・サービス

- 学校教育機能やライフラインの1つであるごみ収集（清掃関連施設）は、特に維持すべきと考えられている。
- 安全・安心に暮らすために不可欠な、治安の維持や防災機能、災害拠点等については維持が前提として捉えられている。
- 社会的に支援が必要な方々に対するサービス（特に人的サービスや社会保障制度の整っていない事項）については市が担うべきと考えられている。

変化すべき機能・サービス

- 多世代・多様な交流の促進
- 多様な利用ができる場、特定利用者みの利用の解消
- 投資的な視点をもった優先順位付け
- ICTやAI活用により、施設からサービス提供への転換（デジタル技術による情報取得等に困難を抱える方々には寄り添う）
- 管理運営の民間委託や委託から民間への譲渡など

これからの公共施設サービスの方向性・在り方

- 「場の提供」：誰もが自由に立ち寄り利用できる、多世代交流が可能な、フレキシブルな利用ができる施設
- 施設の複合化
- 設置目的等の見直し
- 選択と集中により必要十分な量のサービス提供
- デジタル活用による効率化
- 民間施設活用や近隣市との広域連携等の推進
- 運営委託など地域の自主性を重んじた施設運営
- 施設管理の一元化

i 将来予測	将来の在り方		
今後どんなことがおこる？ どんなニーズ変化が見られる？	ii 公共サービスとして 維持すべきこと	ii 公共サービスとして 変化すべきこと	iii これからの公共サービスとしての 方向性・在り方
人材不足や人口構造の変化 - 人口減少・高齢化 - 人口減少に伴う市職員、人手不足が進行 また、施設・サービス利用者の減少も考えられる - 労働人口の減少 - 公共交通の減少 - 税収減少 - 外国人は増加 施設・設備への対応 - 空き家の増加 - 施設の老朽化 - LED化・蛍光灯の廃止（～2027年） - 文書記録の保管場所が不足 市民ニーズの多様化と変化 - 子ども人口の減少に反して、発達等に関する相談は増加の一方 - コミュニティの希薄化 - 個人主義化 - 事業・活動について、やる人がいなくなったから行政に実施してほしいといった要望がある。全てに対応はしきれない - ニーズの多様化 デジタル技術の活用・一般化 - 電子申請が普及 - AIの活用機会の増加 その他 - 災害	必要な機能・サービス - 地域の足（交通機関）の確保 - 多言語対応 - 最低限必要なものをのこしていく - 必要な人材にお金をかける - 市民の声を反映していくこと - 誰でも利用できるサービス提供 - 比較的安価な利用料 - 社会的に支援が必要な方々への支援（自立している方には自身でやってもらう） - 安全性（災害時の拠点） 情報提供・管理 - 情報へのアクセス確保 - 持続性・保存性（文書・美術品）	官民連携 - 公設民営から民設民営、民間活用 - 施設（ハード）管理の縮小 最新技術の活用 - 自動運転の検討 施設・サービスの再検討 - 縦割施設ではなく、複合化を検討 - ハコモノに頼らないサービスの形 - 個人のニーズに合わせて自由に利用できる居場所づくり - 自宅でも利用できる公共サービスの充実 - 本当に必要か？判断する	広域化・官民連携等 - 広域連携（近隣市との乗り入れ） - 部署にまたがる類似事業の合併・効率化 - 民間活用 - デジタル技術・AI活用による業務・運営効率化 - 優秀な人材の確保 施設等の汎用化 - 施設・サービスの複合化 - サービスの提供場所の変更、発想の転換 - 既存ハコモノ（施設）の用途変更・有効活用 - ハード管理ではなく、ソフト面での支援

i 将来予測	将来の在り方		
今後どんなことがおこる？ どんなニーズ変化が見られる？	ii 公共サービスとして 維持すべきこと	ii 公共サービスとして 変化すべきこと	iii これからの公共サービスとしての 方向性・在り方
施設の老朽化・必要数の減少 - 雨漏りがするなどの老朽化。それに伴う維持管理コストの増加 - 人口減少に伴い、必要な施設の数が増減 ⇒ホールなどは1市に1施設はいなくなる 人口減少・人口構成の変化 - まだ増加しているが将来的には人口減少に転じる - 人口減少に伴う市職員、人手不足が進行 - 外国人は増加 - 高齢者は増加 - 独身世帯は増加 デジタル技術の活用・一般化 - 行政サービスのデジタル化が進行。必要に応じて、訪問等によりサービス提供をカバー - オンラインで出来る事が増え、手続きなどのために集まる・会う場所が不要に - 最終的には役所が施設として消滅 - 公共施設の無人化も進む - 公共交通の無人運転等による最適化 - VR技術の活用 気候変動 - 地球温暖化で夏が暑くなる	事業運営 - 条例などの法的な仕組みは必要 - 多様な情報発信 必要な機能・サービス - 治安機能 - 学校教育機能 - ごみ収集 - 人と人が会う文化・交流などの機能 - ニーズのある居場所となる施設 多様化するニーズへの対応 - 多様化するニーズ全てには応えきれない - どこまで対応するかは国の方針待ち	交流の促進 - 多世代交流・多世代が自由に使える施設 - 予約不要、気軽に立ち寄れる施設 - 滞留できる場を増やす 施設からサービスへの転換 - 施設からサービスへ - 電子図書の活用（所蔵と配送中心へ） - AIの活用 多様化するニーズへの対応 - 学校などの外国人対応（専門用語など） - インクルーシブな教育環境 官民等連携 - 委託から民間への譲渡 - 病院との複合化 - 大学との複合化	気軽に利用できる施設 - 自由に使える簡易的な居場所 - 設置目的だけでなくフレキシブルな利用ができる施設 多世代交流ができる施設 - 空き家を活用したグループホーム（多世代（若い人）との交流もOK） サービス維持のための技術活用 - 最近の機器を活用した利用者支援 - 技術対応からこぼれ落ちる人へのフォロー 連携促進 - 広域連携 - 民との複合化 - 大学との連携 ⇒市：サービス提供の効率化 ⇒大学：研究フィールドとしての活用

i 将来予測	将来の在り方		
今後どんなことがおこる？ どんなニーズ変化が見られる？	ii 公共サービスとして 維持すべきこと	ii 公共サービスとして 変化すべきこと	iii これからの公共サービスとしての 方向性・在り方
人材不足や人口構成の変化 ・ 将来的には少子化が進む。一方で現在子どもの人口が増えており学校のキャパシティが必要 ・ 高齢化 ・ 施設利用者の高齢化により「いいの部屋」のニーズが増える ・ 人材が不足して施設の維持管理が難しくなる 市民ニーズの変化 ・ 市民ニーズの多様化 ・ ニーズの多様化に伴う施設の改善が求められる ・ 多様なニーズを持つ市民への対応が必要になる ・ 安心して相談できる場所が必要になる 施設・設備への対応 ・ 施設の老朽化への対策の必要性が生じる ・ 施設老朽化に伴う維持費の増加 ・ バリアフリー化への対応が求められる ・ ゼロカーボンシティ宣言都市として温暖化対策 ・ 建築費の高騰 デジタル技術の活用 ・ 自動運転バスの運行 ・ AI、デジタルの活用が進む	必要な機能・サービス ・ 学校教育（学校） ・ 保育 ・ 清掃関連 ・ 社会保障制度の整っていないもの ・ 防災 ・ 民営化できないもの ・ 市としてやらなければいけないもの（法令の定めによるもの）	官民連携 ・ 集会施設の管理・運営の民間委託 施設・サービスの再検討 ・ ニーズに対応した利用方法や施設設置目的の変更等 ・ 特定の利用者へのみの利用の解消 ・ 利用ニーズと供給サービスのミスマッチの解消 ・ 行政がやるべきことを見極める（多様なニーズへの対応） ・ 優先順位をつけた対応（何でもできるわけではない） 財政 ・ 投資的な視点（整備施設は今後50年も利用する長期的な視点をもって） ・ 借地や借用施設でも返却時には現状復帰が必要。それらを見越した予算確保 公共交通と人材の確保 ・ 高齢化に伴い公共交通の必要性が増す ・ 人的資源の確保 ⇒公共交通維持 ⇒運営・維持管理の人材	民間活用 ・ 民間施設の効率的な活用 ・ 借地の代替地の確保 ・ 民間への委託 施設等の汎用化 ・ 誰もがふらっと立ち寄れる場所 ・ 多世代交流ができる場所 ・ 家族だけでは体験できないことが体験できる場所 ・ 様々な選択肢の提供 ・ 必要十分な量のサービスを提供する（必要なサービスを過不足なく） ・ ICTの活用 持続可能な財政運営 ・ 提供機能・サービスの選択による財源の集中 ・ 優先順位をつけ予算を確保する ・ 必要なものには財源を集中させる

i 将来予測	将来の在り方		
今後どんなことがおこる？ どんなニーズ変化が見られる？	ii 公共サービスとして 維持すべきこと	ii 公共サービスとして 変化すべきこと	iii これからの公共サービスとしての 方向性・在り方
価値観の多様化と変化 - 外国人対応（多言語対応）など、市民の価値観が多様化し、求められるサービスの細分化・個別化が進む - 時代の変化に伴い市民のニーズがコロコロ変わり、普遍的に画一の公共サービスを提供し続ける意義が薄くなっていく（その時代時代に合わせた変化を求められる） - 施設を利用する年齢層に変化が出る（施設によって若くなったり、高齢化したり） - 公共サービスに相当する内容を民間が提供していたり、公共が民間サービスに相当する内容を提供していたり、競合関係が生じ得る デジタル技術の活用 - 行政職員の減に伴い、行政事務にAIを活用するようになっていく - デジタル化が進みながら、一部紙文化が残るところがある（図書館など） - 情報格差が拡大し、そこに取り残される人が出てくる 公共施設の需給バランス - 学校の教室などが、不足すること、余ることいずれの場合もあり得る	必要な機能・サービス - 誰でも使える公共施設を維持すること（ハード・ソフトともに） - 災害など、万が一の事態が発生しても、安全に使用できる施設を維持すること - デジタル技術による情報取得等に困難を抱える方々や、社会的に支援が必要な方々に対するサービスの提供（主として、人的サービス）	行政の役割の再定義 - 行政として提供するサービスを細かく限定せず、「場」を提供することに徹する - 転用のできない専用諸室、専用施設を作らない。用途を限定しない - 学校・防災など必要な公共サービスを残すなど、必要な行政サービスを取捨選択することが理想 ICT/AIの活用 - ICT化やAIによるサービス提供を進め、事務の効率化を図る - 一方で、全てをICT化するのではなく、社会的に支援が必要な方々に対して寄り添うサービス（人的サービス）はなくさない。ICT化やAIの導入により生まれた人的資源はこちらに振り分ける	施設等の汎用化 - 将来、用途を容易に転用できるなど、汎用性の高い施設整備を行う - 施設の複合化を進める 施設管理の在り方 - 事業担当課で施設の所有・管理を行わず、専門組織による所有・管理とし、事業担当課は施設運営に徹する - 施設管理を一括化することで、修繕などの予算配分や委託などのコスト管理を柔軟に行う 地域へのアウトソーシング化 - 住民が利用する施設は、地域住民に運営を委ねるなどし、当事者同士の自主性に期待した施設運営を行う（行政は、施設管理に徹する） - 地域企業など、民間の力を活用した施設運営を行う

公共施設在り方・再編方針策定における職員検討会（第2回） 結果概要

1. 実施概要

目的	公共施設の現状や課題を共有し、これからの時代に必要な公共施設の在り方について考え、その実現に向けたアイデアや視点を各施設の運営に最前線で携わっている職員による検討を行い、「公共施設の在り方・再編方針」の策定につなげていく。 第1回の結果これからの公共サービスの方向性・在り方として、「住民への場の提供」が各班で上げられたことを踏まえ、その「市民の居場所をつくる」施設とはどのような施設で、どのようにしたら実現できるか意見交換を行う。
日時・参加人数	令和6年11月28日（木）14:30～16:30、20名（4班体制）
テーマ	テーマ1：「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か テーマ2：多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか

2. ワークの流れ

テーマ1
これからの公共サービスの方向性・在り方について
「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か

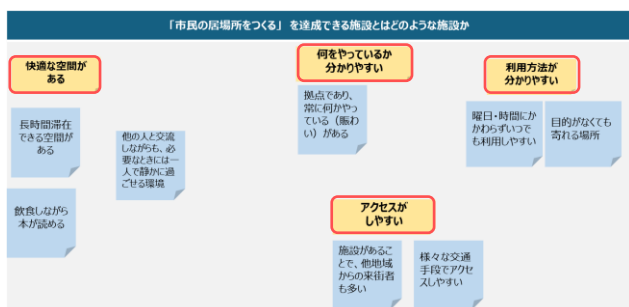
考え方についてアイデアを出し、考え方をグルーピングして共通のテーマをつくる。

テーマ2
多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか

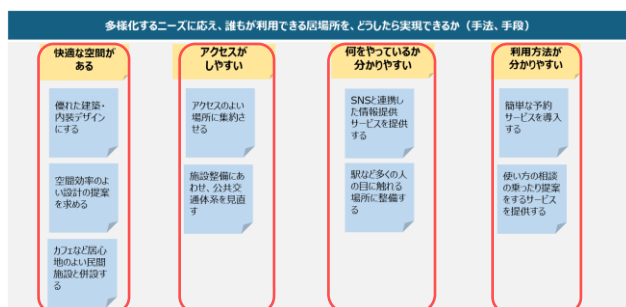
テーマ1でグルーピングした共通のテーマに沿って実現させる具体的な手法、手段のアイデアを出す。

手法、手段を類似するもので再度グルーピングし、グルーピングに**共通する内容＝実現手段**について考える。

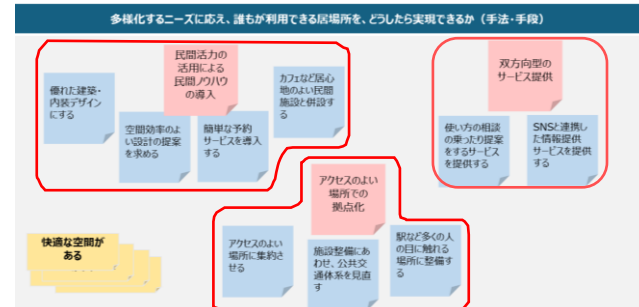
ワークのイメージ（例）



共通のテーマを設定



共通のテーマ別に、実現するための手法・手段を意見交換



実現するための手法・手段をグルーピング

2. 結果概要

テーマ1：「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か

立地・アクセス

市の中心地・駅前等に立地しており、どの地域からも障がいのある方も**行きやすい場所**にある。

<主なアイデア>

- ・駅前立地、駅近く、市の中心地にある
- ・障がいがあってもアクセスしやすい
- ・駐輪場・駐車場の確保
- ・送迎バスの整備

開放感があり快適に過ごせる空間

十分な広さが確保され、窓や屋上、バルコニー等からも景色を眺められる。また、ベンチや寝転がれる場があるなど、**それぞれが快適に過ごせる空間**がある。

<主なアイデア>

- ・十分な広さがある
- ・くつろげる空間
- ・開放された屋上やバルコニー、天井の高いエントランス
- ・日当たりが良い
- ・外や景色を眺められる

多様なニーズに対応

交流（団体）スペースと個人占用スペースがあり、用途に応じて多目的に利用可能である。

また、**飲食機能や趣味・娯楽を楽しめる**とともに、**広場・公園が隣接する**など、世代にとらわれずに利用ができる場であること。

<主なアイデア>

- ・広い空間と狭い空間の滞在型施設
- ・バリエーションが多い
- ・ターゲットが明確で趣味の活動や学習の場として集まれる
- ・世代にとらわれず、個人でも団体でも利用できる
- ・人が集まって会話できる、交流ができる、人と接することで情操が豊かになる
- ・一人でも居心地がよい
- ・走り回れる公園や広場が隣接している
- ・カフェや飲食機能（飲酒可）、こども食堂、休憩利用
- ・イベントが開催される

気持ち的なアクセス・行きやすさ

予約をしなくても利用ができ、商業施設が隣接するなど、**何かのついでの利用**ができる。また、**利用料が安価**に抑えられている。

<主なアイデア>

- ・何かの目的のついでに行ける
- ・予約せずに行きやすい
- ・高額な利用料がかからない

地域のシンボル・地域に愛される

新しい施設であることはもとより、**きちんと維持管理**され明るく綺麗。またファサードデザイン等により**地域のシンボル**であること。

<主なアイデア>

- ・公共施設らしくない
- ・小金井市らしさを感じる
- ・新しく綺麗、明るい
- ・何年たっても維持管理が行き届いている

自由な運用

利用者側には時間や用途、管理者側には用途や予算の使い方などの柔軟性がある。

2. 結果概要

テーマ2：多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか

民間活用（管理・運営面）

施設の管理・運営に関し効率化・合理化を求めるだけでなく、民間のアイデア・ノウハウを積極的に取り入れ**民間による質の高い運営やサービス提供**を行う。

＜具体的な手法・手段のアイデア＞

- ・民間サービスの活用
- ・自由な発想によるアイデア
- ・民間とのコラボレーション
- ・先進事例からのノウハウ取り入れ（武蔵野プレイスなど）
- ・利用したくなる機能のニーズ調査

施設の再編・集約による地域拠点化

地域に小規模施設が数多く分散しており、膨らんでいる施設の維持管理費の縮小を図るため、施設の**再編や集約化**を行い、あわせて**地域における拠点化**を図る。

＜具体的な手法・手段のアイデア＞

- ・分散している機能を集約する
- ・公民館と集会施設の集約化
- ・市内数か所に拠点を配置

設置目的の再考・ルールの変更

条例や法等による様々な利用制限や、利用の際の事前予約等のわずらわしさを解消するため、**設置目的の再考・ルールの変更**により利用に関し自由度を高める。

＜具体的な手法・手段のアイデア＞

- ・予約制度の廃止
- ・団体利用前提条件をなくす
- ・自由に利用ができる
- ・利用に関しわずらわしさがない
- ・社会教育法の縛りをなくす

民間活用（施設・ハード面）

民間施設の利用のほか、市民にとって地域のシンボルであり、話題に取り上げられ関心が高まるよう、コンペによる建築デザインの決定や企画段階から**民間のアイデア・ノウハウ等を取り入れた施設設計**を行う。

＜具体的な手法・手段のアイデア＞

- ・民間施設の活用
- ・コンペによるデザイン決定
- ・知ってもらえる話題になるデザイン
- ・工夫を凝らした設計

移動手段の確保（民間活用を含む）

施設の再編・集約化等により、公共施設から離れた方も利用しやすく、利便性が増すように**移動手段の確保**や**先端技術を取り入れた無人運転の導入等**を検討する。

＜具体的な手法・手段のアイデア＞

- ・CoCoバス存続危機を回避するための自動運転の実証実験や導入の検討
- ・自動運転のタクシー・バスの活用
- ・施設間を巡回するバス
- ・無料タクシー

確実な維持管理・維持管理の一元化

施設所管課の予算・人手不足等による対応の遅れが生じていたり、社会情勢に応じた事前の物品の確保などが求められていることから、専門知識を有する組織による**管理の一元化・一括管理**による滞りのない確実な維持管理を実施するとともに、スケールメリットを活かしたコスト削減を図る。

＜具体的な手法・手段のアイデア＞

- ・担当課が担うのではなく庁内専門組織が対応する
- ・管理者の設置
- ・定期的なメンテナンス
- ・予算付け
- ・品質を維持するための稼働仕組みづくり
- ・維持管理が行き届いている

2. 結果概要

テーマ2：多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか

居心地のよい空間の確保

公共施設にくる目的は人それぞれで、また目的がなくても行きたくなるような市民の居場所となるよう、市民の誰もが（個でも団体でも、子どもも大人も障がいのある方も・・・）、快適に過ごせる**居心地の良い空間**をつくる。

<具体的な手法・手段のアイデア>

- ・心理的・物理的に入りやすい施設
- ・雑踏の中でも個の時間・空間を楽しめる
- ・空間を自由にアレンジできる部屋ではなく空間の設え
- ・時間がつづせる
- ・休憩できる（椅子やベンチが多い）
- ・基本スペックの向上

市民意見や発想の転換による機能・サービスの導入

市民のための施設であることが前提であることから、**市民意見を反映**させるとともに、誰もが利用できる居場所であり多様なニーズに応えられる、公共施設といった**固定概念の解消や発想の転換により機能やサービスを充実**させる。

<具体的な手法・手段のアイデア>

- ・小規模施設を多くではなく、ある程度の規模をもたせる
- ・複数の諸室構成・多様な諸室
- ・導入機能の市民意見の反映
- ・飲食や食堂スペース（飲酒が可能）
- ・テナントをいれる
- ・賑わいがある、買い物（食材）ができる
- ・出会いの場の提供
- ・利用したくなる機能のニーズ調査

近接する施設や利便性を踏まえた立地選定

市民にとって商業施設や駅等は日ごろから利用している身近な施設であり、生活に欠かせない施設でもある。それらの商業施設や、駅・駅前利便施設近くであれば、多くの人が集まるとともに、市民のついで利用も促されることから、**アクセス・利便性の高い場所**を選定する。

<具体的な手法・手段のアイデア>

- ・市民の生活動線上にある
- ・ついでに利用できる
- ・商業施設内
- ・駅に近い

テーマ1 「市民の居場所をつくる」 を達成できる施設とはどのような施設か
考え方についてアイデアを出し、考え方をグルーピングして共通のテーマをつける。

アクセス

- アクセスしやすい
- 障がいがあってもアクセスしやすい
- 予約しなくても、ふらっと行きやすい

設備・機能が充実している

- 十分な広さがある
- 施設の中・近くに魅力的なお店（カフェなど）がある
- バリアフリー、インクルーシブな施設
- 予約して使えるスペース（使用したいときに必ず使える）
- 寝転がれる
- 暑くない、寒くない（十分な空調設備）

多目的な用途

- 世代にとらわれずに利用できる
- 利用目的や用途に関わらず使いやすい
- 自由に使える
- 個人でも団体でも利用できる
- くつろげる空間
- 若い人が集まれる場所
- お金（利用料）がかかり過ぎない

娯楽機能がある

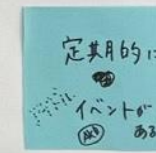
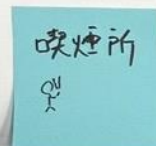
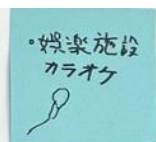
- 娯楽施設（カラオケ）
- 喫煙所
- 酒が飲める
- 定期的にイベントがある、人が集まるきっかけがある

子どもや家族と利用できる

- 子どもをのびのびと遊ばせることができる
- 子ども向けのイベントが充実している
- 静かに勉強できる
- 走り回れる（公園・広場）

バーチャル

- 自宅を出なくてもアクセスできる
気軽に集まれる空間
- いつでも使える（365日、24時間）



テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）

テーマ1でグルーピングした共通のテーマに沿って実現させる具体的な手法、手段のアイデアを出す。

アクセス

- ・駅の近くに設ける
- ・地域全体でバランスよく配置する
- ・空き家などの活用も検討する
- ・自動運転のタクシー、バスの活用
- ・施設の利用方法が周知されている
（どこに行けば何ができるか周知されている）
- ・わかりやすい利用方法（統一システム）

設備・機能が充実している

- ・民間施設の活用
- ・民間サービスの活用
- ・民間に運営を任せる
- ・持続可能なレベルで
- ・定期的なメンテナンス
- ・設備投資にお金をかける

多目的な用途

- ・分散している機能を集約する
- ・リスクが少ない出店しやすい仕組みづくり
- ・どのような用途でも使いやすい設計にする
- ・自由な間仕切り（収容人数を変更できる）
- ・利用ルールをつくる
- ・利用しやすい料金設定

娯楽機能がある

- ・ニーズ調査
- ・出会いの場（少子化対策）
- ・酒の飲める店を集約して区画を作る
- ・防音対策
- ・食材が手に入りやすい
- ・市場がそばにある
- ・分煙
- ・パフォーマーを呼ぶ

バーチャルの利用

- ・電子図書等複数の人が同時に利用可能
- ・Web空間の活用

こどもや家族と利用できる

- ・走り回れる公園・広場
- ・安心安全な設計
- ・土日夜間に使える
- ・管理者を置く
- ・駐車スペース、駐輪スペース完備
- ・明るい空間で入りやすいデザインにする

テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）
 手法、手段を類似するもので再度グルーピングし、グルーピングに共通する **内容＝実現手段** について考える。

アクセスの良い場所

- 駅の近くに設ける
- 地域全体でバランスよく配置する
空き家などの活用も検討する
- 自動運転のタクシー、バスの活用
- 施設の利用方法が周知されている
（どこに行けば何ができるか周知されている）
- 駐車スペース、駐輪スペースの完備

発想の転換

- お酒を飲める店を集約して区画をつくる
- 出会いの場の提供（少子化対策）
- 防音対策
- 食材が手に入りやすい
- 市場のそばにあり、賑わいがある
- パフォーマーを呼ぶ
- 分煙

民間活用

- 民間施設、民間サービスの活用
- 工夫を凝らした設計
 - ↳ 明るい空間で入りやすいデザイン
 - ↳ 安心、安全な設計
 - ↳ 自由な仕切り（収容人数を変えられる）
- 利用したくなる機能に関するニーズ調査
- サービスの充実
 - ↳ Web空間の活用
 - ↳ 電子図書等、
複数の人が同時に利用可能なサービス
 - ↳ 土日、夜間に使える

一括の管理

- 管理者の設置
- あくまでも持続可能なレベルでのサービスを提供
- どのような用途でも使いやすい設計にする
- 民間に運営を任せる
- 定期的なメンテナンス
- 設備投資（お金をかける）
- 分散している機能を集約する
- 分かりやすい利用方法（統一システム）
- 利用しやすい料金設定

テーマ1「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か
考え方についてアイデアを出し、考え方をグルーピングして共通のテーマをつける。

行きやすい施設

- アクセスしやすい
- 市の中心部にあり、どの地域の人も行きやすい場所にある
- 予約の手間がかからない。電話予約がよい人もダメな人にもそれぞれに対応した予約システム。
- 利用するのに高額な利用料がかからない

綺麗な施設

- 老朽化し汚い施設だと使わない
- 綺麗であること
- 大きな窓があり日当たりのよい場所

多様な使い方ができる

- 複合型施設
- 広い空間と狭い空間の混在型施設
- 多目的に使用できる施設

1人でも皆でも過ごしやすい

- 1人でも過ごしやすい
 - 1人でも居心地が悪くならない
 - 図書館→本を読むとかは一人の利用
- みんなでも過ごしやすい
 - その場に行けば一人にならず、他の人と交流ができる
 - スタジオとかは皆で利用したい
 - サークル募集がされていると参加する。サークルの活動の場としての公共施設
 - 食堂のような場所（そこに行くと人がいて食事ができる。）
 - 孤食対策にもなる
 - こども食堂

何かの目的のついでに行ける

- イベントが常に行われている
- イトーヨーカドー等の商業施設の隣にある

休憩できる

- 暑さを回避するクーリングシェルター
- お茶が飲み放題

テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）

テーマ1でグルーピングした共通のテーマに沿って実現させる具体的な手法、手段のアイデアを出す。

行きやすい施設

- 家の近くにある、もしくはバス停からすぐに行ける場所にある
- 市内どこからでも500m以内には施設がある
- 施設間を巡回するバス
- 公共施設と大規模商業施設を巡回するバス
- 無料タクシー
- 入り口が広い
- 予約が不要、もしくは予約が簡単
- 多様な選択肢

何かの目的のついでに行ける

- 情報発信が多い
- 賑やかな地域にある
- 近くに商店街がある
- 施設の近くに立ち寄りやすい建物がある
- 駅利用のついでに利用できる
- 市庁舎もシンボル
- 武蔵小金井駅が目的施設になる

1人でも皆でも過ごしやすい

- 休憩できる
- 食堂の設置
- 多様な諸室がある
- 飲食スペースがある
- 飲食も気軽にできる
- お茶が飲み放題
- 混みすぎしていない
- 時間をつぶせる

多様な使い方ができる

- 複数の部屋
- 空間を自由にアレンジ（椅子の置き方とか）
- テナントを入れる
- チャレンジショップをいれる（1週間ごとに変わるなど）

綺麗な施設

- デザインが良い
- 知ってもらえる、話題になる
- 武蔵野プレイスみたいな場所
- シルバー層の雇用による清掃
- 清掃が行き届いている

テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）
 手法、手段を類似するもので再度グルーピングし、グルーピングに共通する**内容＝実現手段**について考える。

市内数カ所に拠点を配置

- 家の近くにある、もしくはバス停からすぐに行ける場所にある
- 市内どこからでも500m以内には施設がある
- 施設間（公共施設や大規模商業施設）を巡回するバス
- 無料タクシー
- 南側のエリアは坂があり駅まで行きづらい→南側に拠点施設があるとよい
- 貫井南は何かあるとよい

コンペによるデザイン

- デザインはおしゃれなプロに任せる
- 座れる場所、椅子が多い
- 複数の諸室構成、多様な諸室
- 空間を自由にアレンジできる（椅子の配置等）
- 施設を知ってもらえる、話題になるデザイン（例：武蔵野プレイス等）

市民意見の反映

- 導入機能は市民の意見を反映
- 飲食も気軽にできる、時間がつぶせる施設
- 休憩できる施設
- 食堂、飲食スペースの設置
- お茶が飲み放題
- テナント（1週間で変わるチャレンジショップ）等
- デザイン性の高い施設、品質を維持するための稼働仕組みとして、食堂、多目的スペースを導入

利便性と近隣する施設を踏まえた立地場所の選定

- 賑やかな地域に立地（近くに商店街等）
- 近くに立ち寄りやすい施設がある
- 目的施設となるのは武蔵小金井駅
- 駅のついでに利用できる
- 市庁舎もシンボルではないか

民によるシステム運営

- 予約が不要もしくは、多様な選択肢があり誰でも予約が簡単
- 情報発信が多い施設
- シルバー層の雇用による清掃
⇒きれいな施設の維持
- 維持管理が行き届いている

テーマ1「市民の居場所をつくる」を達成できる施設とはどのような施設か
考え方についてアイデアを出し、考え方をグルーピングして共通のテーマをつける。

開放感がある空間

快適に過ごせる様々な空間

気持ち的に
贅沢を感じられる空間

- ・四季を感じられる、景色を楽しめる場所
- ・利用者に開放された屋上
- ・開放的なバルコニーがある
- ・天井の高いエントランスホール（利用して見てみたくなる、贅沢を感じられる）
- ・ベンチが配置されている
- ・飲食ができる（喫茶やカフェが併設されている）
- ・地下室があり、こもれる
- ・マッサージルームがある
- ・それなりに広い空間がある

交流は前提としつつも
1人になれる空間や時間の提供

- ・個室
- ・交流スペースと個人のスペースが分かれている
- ・家族と来ても、ひとりになれる
- ・ひとりでも当たり前（変に勘繰られない）

趣味を楽しめる

- ・フリーWi-Fiがある（既存）
- ・ゲームなどができる（子ども）
- ・AVルームがある
- ・クラウド型の公共施設予約

ターゲットの明確化

- ・ふらっと入れるトレーニング室（既存）
- ・学習スペース（既存）
- ・児童館（既存）
- ・老人いこいの部屋（既存）
- ・趣味や学習の場として集まれる場所

交流ができる

- ・人と接することで、自分の情操が豊かになる場所
- ・共通の目的を持った人が集まり、目的に向かって行動できる場所
- ・人が集まって会話ができる場所

駅前、センターの立地

- ・駅前立地
- ・市の南北の中央に中央線が通っていて、どこからも〇*。圏内
- ・分散ではなく予算の選択と集中

40年、50年経っても愛される、
新しいと感じられる施設

- ・新しく綺麗な施設
- ・小金井市らしさを感じられる
- ・何年たってもきちんと維持管理され新しいと感じられる施設
- ・目を引くファサードデザイン

テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）

テーマ1でグルーピングした共通のテーマに沿って実現させる具体的な手法、手段のアイデアを出す。

開放感がある空間

快適に過ごせる様々な空間

気持ち的に
贅沢を感じられる空間

- 部屋でなく空間を設える
- 規模感を持たせる
- 心理的・物理的に入りやすい
- 人を感じられる（一人になりたいけど、全くの一人は嫌）

40年、50年経っても愛される、
新しいと感じられる施設

- 斬新なデザイン
- 建物がおしゃれ

家族がいてもひとりになれる場

ひとりでいてもあたりまえ

利用にあたり
気持ち的に負担がない

- 夜間10時までの開館
- 土日利用可能
- 利用にあたって手続きのわずらわしさがない
- 予約制をなくす

交流ができる

趣味を楽しめる

- 人が居る安心感がある
- 公共施設という安全性が担保される
- 自由に利用できる

駅前、センターの立地

- 買い物等のついでに場所にある
- 生活動線上にある
- 移動手段については先端技術で市域をカバーしていく
- 小さなモビリティで利用者を住まいのそばで拾って施設に連れていく仕組み
⇒施設から離れた人も利用可能
- CoCoバスの自動運転

テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）

手法、手段を類似するもので再度グルーピングし、グルーピングに共通する **内容＝実現手段** について考える。

再編、統廃合

公民館と集会施設の集約化

社会教育法の縛りをなくす

団体利用前提の打破

- 予約制度の廃止
- 自由に利用できる
- 利用にあたってわずらわしさが無い
- 土、日利用可能
- 夜間22時まで開館
- 公共施設という安全性・安心感がある

小さな多くの施設ではなく 満足・充実した設え

設え・空間の充実

統廃合により 施設規模を持たせる

- 小規模が多いのではなく、ある程度の規模をもたせる
- 小さな空間だと入りにくさ、利用に対し心理的にハードルがあがる。ある程度の規模感が必要
- 部屋ではなく空間の設え
- 小さい施設をたくさんではなく、規模のある施設
 - ⇒オープンスペースに人は集まるが、部屋を用意しても利用者は少ない。
 - ⇒選挙の際の投票所も市内20か所と多い。近くがよいという声は聞くが、期日前投票の方が増え、実際指定の投票所を利用する方は少ない。（施設が生活動線上にない可能性あり）
- 心理的、物理的に入りやすい施設
- ひとりになりたくても、全くのひとりではなく、人を感じられる
- 雑踏の中でも個の時間・空間を楽しめる
- 人が居る安心感がある

ランドマークとなる施設

- おしゃれ
- 斬新なデザイン
- シンボリックな建物
- 小金井市らしさを表現する。既存施設のからのファサードデザイン

民間の力を借りて実証実験

実証実験からの導入検討

無人運転の実施における 住民の協力

- 施設の駅前、センター立地により近くの施設がなくなった方をカバーする
- CoCoバスも存続危機であり自動運転を検討する
- 駅から離れた人も利用できるように、移動手段は先端技術でカバーしていく
- カートのような小さな乗り物が利用者を拾って連れていく
- 無人運転なら24時間可能であり、従来よりも利便性が高まる可能性もある
- 市民の生活動線上にある
- 買い物などのついでの所にある

ソフト面の交流を促すためにも、ハード面も高める

テーマ1 「市民の居場所をつくる」 を達成できる施設とはどのような施設か
考え方についてアイデアを出し、考え方をグルーピングして共通のテーマをつける。

快適な空間

- ・窓があって外を眺められる
- ・夏→暑くなく、冬→寒くなく

多様な用途

- ・図書館の設置
- ・飲食しながら本を読める
- ・使い方が自由
- ・勉強できる（自習）
- ・保育園・学童、体操ができる場所
- ・子どもや高齢者など、多世代と交流できる

地域のシンボル

- ・公共施設ほくない
- ・古くない新しめの建物
- ・明るい
- ・駐車場・駐輪場の確保、送迎バスの整備
- ・駅近などアクセス良好

おまけ要素

- ・公園、広場が隣接している
- ・カフェが設置されている
- ・バリエーションが多い部屋
- ・温泉、足湯、サウナが隣接している

自由な運用

⇒**管理する側、利用する側双方に自由がある**

- ・（利用者にとって）時間が自由
- ・（管理者にとって）好きな備品を置ける（楽器とか）
- ・（管理者・利用者ともに）用途の自由度が高い
- ・（管理者にとって）予算の使い方が自由（柔軟性がある）

テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）

テーマ1でグルーピングした共通のテーマに沿って実現させる具体的な手法、手段のアイデアを出す。

快適な空間

- ・防音設置
- ・壊れたらすぐ直す（エアコン等）
- ・綺麗な最新型トイレを導入する

多様な用途

- ・建築はプロに頼む
- ・武蔵野プレイスに教えてもらう

地域のシンボル

- ・スタジオジブリに頼む
- ・国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）とコラボする

おまけ要素

- ・割引サービスの導入
- ・公園の中に作る
- ・イトーヨーカドーの中に作る

自由な運用

- ・すぐに直せる予算がある
- ・メンテナンスを専門に頼む

テーマ2 多様化するニーズに応え、誰もが利用できる居場所を、どうしたら実現できるか（手法、手段）
 手法、手段を類似するもので再度グルーピングし、グルーピングに共通する **内容＝実現手段** について考える。

民間のアイデア・
ノウハウの活用

- ・プロに頼む（建設家）
- ・スタジオブリに頼む
- ・国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）とコラボする
- ・武蔵野プレイスに教えてもらう

⇒地域のシンボルとなるような建物とすることや、自由度の高い特徴的な運営を行っていくには、これを市職員で企画することに限界があり、企画段階から民間事業者のアイデア・ノウハウを積極的に取り入れていく姿勢が必要。

⇒民間事業者に求めるべきことに、効率化や合理化によるコストダウンも大切だが、むしろ自由な発想によるアイデアが求められる。

確実な維持管理

- ・壊れたらすぐ直す（冷暖房設置）
- ・すぐ直せる（予算がある）
- ・施設のメンテナンスを担当課が直接担うのではなく、庁内の専門組織が対応する。

⇒雨漏りや空調設備などの修理が担当課で予算確保できないことにより滞ることで、市民に快適な空間が確保できていない。

人が集まる場所への立地

- ・割引サービスの導入
- ・公園の中に作る（小金井公園）
- ・イトーヨーカドーの中に作る

⇒立地の制約がなければ、人が集まる公園や、民間商業施設に公共施設を併設立地させていくことで、利用者の利便性向上や公共施設用地の問題を解決しようとする考え方（小金井公園やイトーヨーカドーは例示）

基本スペックの向上

- ・防音施設
- ・綺麗なトイレ（最新型）を導入する